平成27年度第２回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会　結果概要

◆日時　　平成27年12月３日（木）19：30～20：27

◆会場　　伊勢市役所東庁舎４階　４－３会議室

◆出席委員

齋藤　平委員、川口徳郎委員、木村成吾委員、大西　栄委員、奥出　協委員、
西村純一委員、中林広己委員、小見山健司委員、中村　功委員、田村重幸委員

◆欠席委員

西山　敦委員、岩﨑良文委員、前田政吉委員、山﨑勝也委員、米倉敦也委員、
畑　金力委員、東谷泰明委員

◆出席職員

情報戦略局長、企画調整課長、企画調整課係長、企画調整課係員、
健康課副参事、こども課長、商工労政課長、農林水産課長、農林水産課副参事、
観光振興課長、観光誘客課長、交通政策課長、広報広聴課長、社会教育課長、
教育研究所教育研究研修係長、職員課長、都市整備部次長、病院経営推進部参事、
市民交流課副参事

◆内容（概要は別紙のとおり）

１　来年度の新規取組等について

２　今後のスケジュールについて

３　圏域の現状と課題について

◇会議録（要録）
以下の要録は、事務局により要旨を編集したものであり、微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

１　来年度の新規取組等について

(1) 漁獲物の移動販売等

【事務局による説明】

共生ビジョンに記載された取組「地産地消の推進、地場産品のＰＲ」において、「漁獲物の移動販売」及び「漁協交流イベント・勉強会の開催」等を実施する事業に、三重外湾漁業協同組合のノウハウを活かし伊勢市と大紀町が取り組む。協定及び共生ビジョンに記載された範囲内で実施するため、協定変更は不要。

【意見交換】

・伊勢湾漁協と三重外湾漁協錦事業所が連携した取組であるが、他の漁協の関わりはあるのか。
⇒南伊勢町奈屋浦の三重外湾漁協本所が毎日移動販売を行っており、伊勢市内にも週に一度来ている。三重外湾漁協本所のノウハウを学びながら進めていきたい。
・鳥羽市では市、観光協会、鳥羽磯部漁協が連携して漁業を応援している。鳥羽マルシェでの海産物等の産直販売、海女の人材確保・育成、「海女さん応援プラン」や「答志島さわらキャンペーン」といった旅行企画などを行っている。
・買い物弱者への対応として、移動販売は曜日や時間を決めて定期的に実施するのか、それとも漁のあるときに実施するのか。
⇒伊勢湾漁協としては、まずは週２回程度の実施を考えている。日時や回る場所は様子を見て検討していきたい。
・移動販売を継続していくために採算がとれる仕組みをつくることが大切である。需要が多ければ回数を増やす、曜日を決めて固定客の獲得に努めるなど、考えていくべきである。
・高齢者にとって魚の骨や内臓の処理はやっかいである。骨や内臓の処理など、顧客の要望にできるだけ応える形を考えてほしい。
・買い物弱者の視点に立つと、魚だけでなく肉や野菜も一緒に買えると良い。漁業だけでなく他の分野と連携することで、取組がさらに発展する。勉強会の開催については大学の学生も一緒に取り組めると良い。

(2) 出会い・結婚に関する情報提供等

【事務局による説明】

伊勢市が 10 月に開所した「いせ出会い支援センター」を拠点とし、出会い・結婚に関する情報提供、相談対応、セミナー開催などを行う。協定及び共生ビジョンに記載されていない取組であるため協定変更が必要。今後、参加市町の調整を行う。

【意見交換】

・「いせ出会い支援センター」の相談件数はどのようになっているか。
⇒10 月 18 日の開所日から 11 月 14 日までで、205 名の来所があった。

・玉城町の地方創生の取組として、都会在住のシングルマザーを対象にした移住促進を行うと聞いた。伊勢市の取組においても、都会在住の伊勢市や伊勢志摩地域の出身のシングルマザーを対象に、仕事や子育ての情報とセットにして、出会いと結婚の情報を案内できれば面白い。

・鳥羽市では 10 年以上前から出会いと結婚の支援事業に取り組んできている。離島の人々は婚機が少ないため、新聞広告を出すなどし、都会から鳥羽での出会いイベントに参加する女性を呼んでいる。コーディネーターの支援も受けて、これまで数十組が結婚に至った。

・伊勢市には昔、結婚相談所があったくらいで、結婚は昔も今も難しい問題ではあるが、一つの方法として良い成果を生んでいってほしい。

・出会いの場が少ないと言っている人は、外出も少ないと思われる。最初のきっかけとしてインターネットを介した交流も一つの方法。外側から相手を連れてくるという視点は大切である。

・親としては子どもの結婚の心配はするが、親が口を挟むことが難しい時代で、子どもに任せようとする傾向がある。

・昔に比べて若者のコミュニケーションの機会や能力が乏しくなっているため、出会いと結婚につながる様々なコミュニケーションの方法を用意し、各自使いやすい方法を選べることは大切である。年上の世代と積極的にコミュニケーションを図ることで、おせっかいを通じての出会いの幅が広がる。

・非正規雇用の男性の割合が高まっており、収入面の不安から結婚に踏み切れない男性が増えていることは大きな課題である。

・高校卒業後の短大や専門学校を含めた進学率は、女性の方が男性よりも高い。女性の学歴が高いことも、結婚の一つの壁となっていると思われる。

・「いせ出会い支援センター」の利用者の男女、親・本人の比率はどのようになっているか。
⇒男女比は男性 62%、女性 38%である。親・本人の比率は、親が 33%、本人が 52%、親子同伴が 15%となっている。

２　今後のスケジュールについて

・各市町の首長で構成する伊勢志摩定住自立圏推進協議会を 12 月 24 日に開催し、新規取組への参加意向確認等を行う。参加意向を表明した市町は、議会での議決を経た後、年度内に協定変更を行う。

・次回の懇談会は、伊勢志摩サミットの後、６月頃を予定。

3　圏域の現状と課題について

・３月から路線バスにＩＣカードが導入されると聞いているが、コミュニティバスにもＩＣカードを導入することは技術的に可能であるのか。
⇒技術的には可能であるが、費用的に難しい。路線バスの車内では、観光客から「ＩＣカードは利用できないのか」という問い合わせが多くなっている。

以上